

◆戸別収集・有料化導入の必要性と意義

1

(1) 有料化

「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」 環境省 平成13年度策定

- ・平成17年5月に一部改正

→市町村の役割として

「経済的インセンティブを活用した一般廃棄物の排出抑制や再生利用の促進、排出量に応じた負担の公平化及び住民の意識改革を進めるため、一般廃棄物処理の有料化の推進を図るべきである。」

- ・平成23年度末

全国の自治体の約62%で家庭系ごみの有料化を実施

神奈川県内 大和市、藤沢市で実施

(2) 戸別収集

- ・排出者責任の明確化
- ・クリーンステーション周辺の美化
- ・高齢者等の負担軽減

◆戸別収集モデル地区の実施状況

2

H24.10~H25.3

モデル地区	建 物 件 数			世帯数
	計	戸宅件数	集合住宅件数	
七里ガ浜	743件	711件	32件	932世帯
鎌倉山	794件	788件	6件	884世帯
山ノ内	1,346件	1,290件	56件	1,660世帯
計	2,883件	2,789件	94件	3,476世帯

1 戸別収集モデル事業の目的

- (1) 収集困難地区の効率的な収集体制の検証
- (2) 戸別収集実施前後における燃やすごみの量の変化
- (3) 戸別収集モデル地区における住民意識の確認

(1) 収集困難地区の効率的な収集体制の検証

当初、収集時間の遅れやごみの取り残しがあったが、現在は予定時間内で収集が行われ、取り残し問い合わせもほとんどない。

(2) 戸別収集実施前後における燃やすごみ量の変化

	週当たりの排出量 (戸別収集モデル地区全世帯)	資源物の混入量 (対象80世帯) ※重量ベース
実 施 前 (9月：3地区平均)	7,346kg	17.5%
実 施 後 (10月～2月の3地区平均)	6,561kg	16.3%
実施前後の差	▲785kg/▲10.7%	▲1.2%

ごみの減量・資源化への意識が高いモデル事業実施地区においても戸別収集の導入は一定の効果があった。

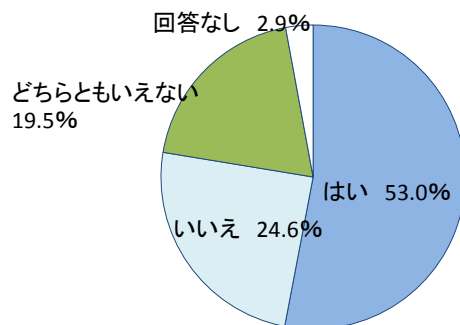
(3) 戸別収集モデル地区における住民意識の確認

戸別収集モデル事業アンケート調査の結果

H24.12実施

配布数 2,980世帯 回答 1,814世帯 回収率 61%

・戸別収集を体験して、ごみの分け方や出し方を以前より注意するようになりましたか。



5

・戸別収集を体験し、どのような利点が生じましたか。（複数回答）

ごみの減量や、分別の徹底がすすんだこと(391)

自宅の敷地に出せるようになって、ごみ出しが楽になった(1,156)

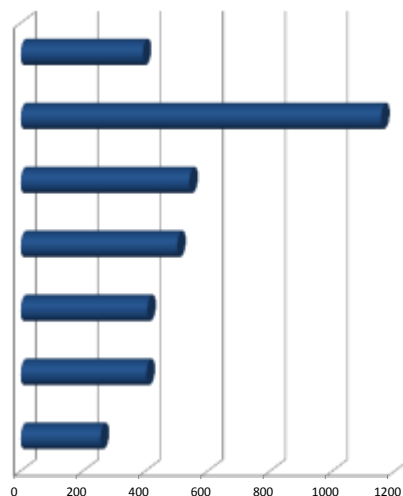
自宅の敷地内に出すようになり、カラスや猫の被害が減った(541)

クリーンステーション付近への不法投棄が少なくなっている又は無くなっている(502)

クリーンステーションの管理の負担(掃除当番など)が無くなった(406)

道路上からごみが無くなり、まちの美観がよかった(403)

特にない(256)



6

・戸別収集を体験してどのような欠点が生じましたか。（複数回答）

ごみのプライバシーを守ることができなかった(147)

自宅の前にごみを置くことが、苦痛である(119)

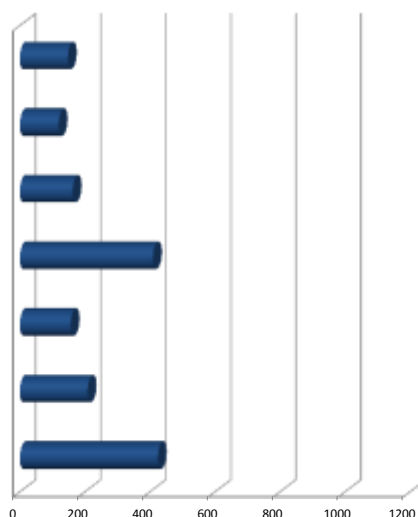
カラスや猫の被害を防ぐことが、面倒であること。又は、カラスや猫の被害が増えて困った(162)

ごみ・資源物を出す場所が2箇所になり不便になった(409)

近所付き合いが希薄になった(156)

自宅の敷地に出すようになって、まちの景観が悪くなった(208)

特にない(424)



7

2 全市実施に伴う推計コスト		
①	平成23年度 クリーンステーション収集経費決算値	948,304千円
②	平成23年度に戸別収集を実施した場合の推計コスト	1,472,716千円
③	戸別収集を実施した場合の増額コスト ②－①	524,412千円
④	有料化による手数料収入等	452, 514千円
戸別収集による増額コスト－有料化による手数料収入等		71, 894千円

8

◆ 戸別収集・有料化全市実施の内容
●実施時期 平成26年7月に全市実施 ●今後の予定 ・ 7月：市主催説明会（15会場） ・ 8月：学識経験者による講演会 ・ 9月：市主催説明会（5会場） ・ 10月：意見公募（パブリックコメント）実施 ・ 12月：市議会に条例改正の議案上程 随時、自治・町内会等を対象に説明会を実施。